金沢城本丸跡の石造遺物

三浦純夫*1

1．石造遺物の所在地と塔身収蔵の経緯

金沢城本丸とその周辺に２点の石造遺物がある。それらは一向一揆の研究で知られる本学法文学部故井上鋭夫教授が関心を寄せたものである。１点は手洗石と呼ばれる巨石で，もう１点はその後資料館所蔵となった石層塔（あるいは宝篋印塔）塔身である。

二の丸から極楽橋を渡り石段を上ると，三十間長屋のある平面に出る。ここを本丸付段とよぶ。ここに「手洗石」という，中央に窪みを持つ巨石があり(図１のＡ及び写真１),長径176cm，短径113cm，高さ71cmで，窪みの直径59cm，深さ19cmを測る。これは，藩政時代石垣に組み込まれたとされる巨石と対をなし，柱の礎石になっていたという言い伝えがある。

本丸は，本丸付段より一段高い面にあり，現在は植物園となっている。中央部には２つの塚があり，いずれも不整形で裾部を石垣材で乱雑におさえている。「塚」１は，東西８ｍ，南北7.3ｍ，高さ１ｍ，「塚」２は東西６ｍ，南北８ｍ，高さ１ｍを測る。２つの塚は昭和43年の発掘調査によって,「江戸末期の本丸地表面に敷かれた玉石の上に」築かれたものであることが確認されており，明治時代以降のものとみられる。塔身はこの「塚」２の上に置かれていた。塔身の上には73cm×38cm，高さ11cmの板状の自然石が乗っていた。塔身は，井上教授によって研究資料として三十間長屋に移され，その後三十間長

写真１　金沢城本丸付段の「手洗石」

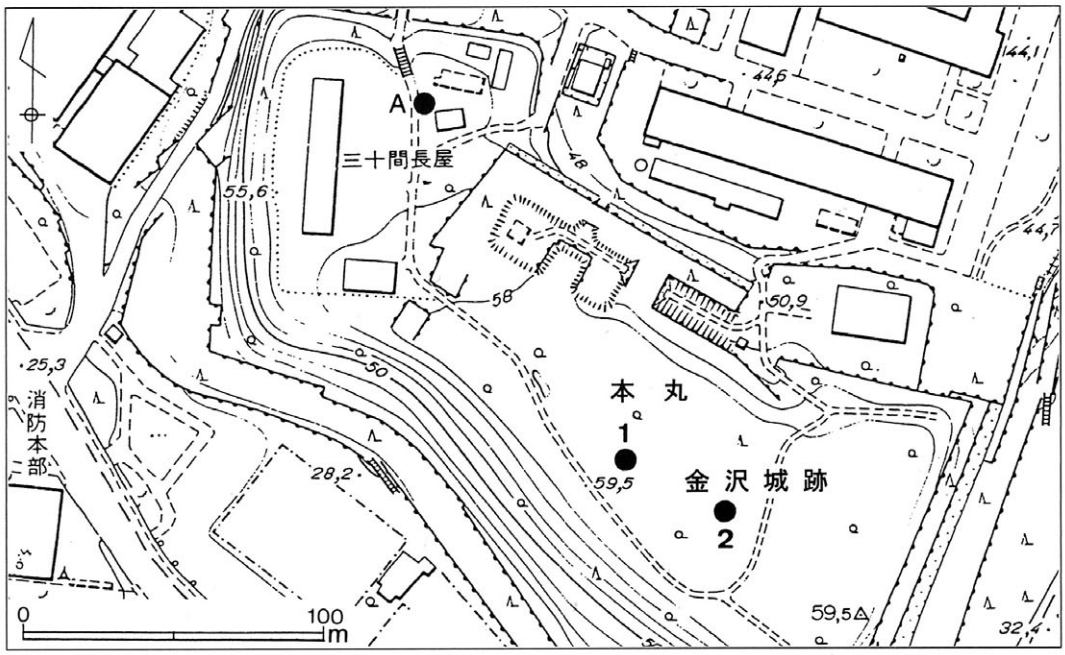
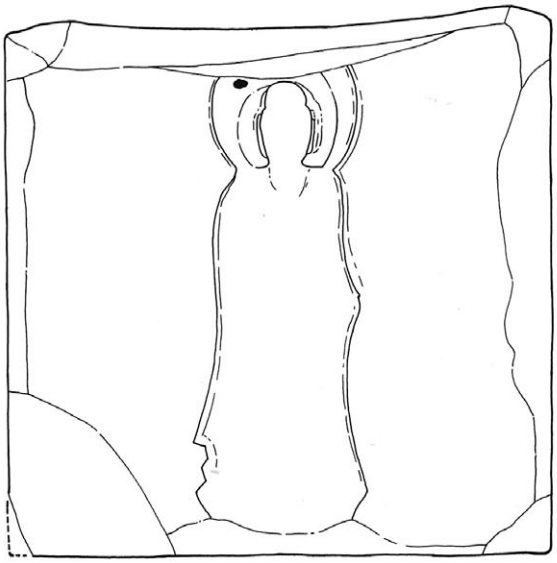
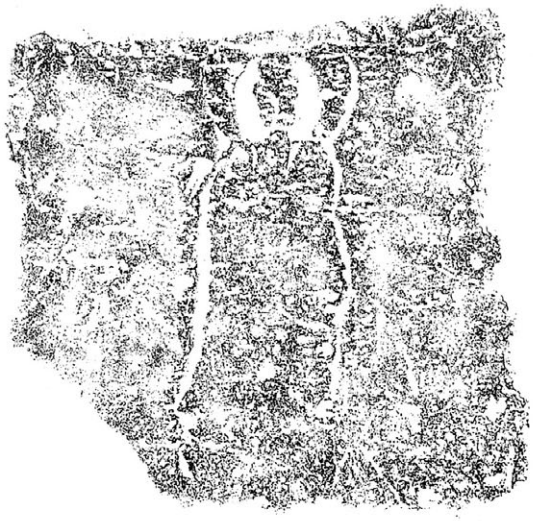


図１　「手洗石」と「塚」の位置　　1/2,500



a　面



a 面拓影

b　面

c　面

図２　石造遺物(塔身)実測図・拓影　S＝1/6　0　20cm

(＊１．金沢大学資料館客員研究員
＊２．金沢大学資料館職員)

屋の同教授の収集による他の資料とともに資料館に収蔵された。

井上教授はこれら石造遺物を金沢御堂にかかわるものとみなし，次のような見解を示している。巨石が言い伝えどおり２個あったとすれば手洗い用として不自然であり，「御堂の内陣の本尊の両側に立てられた巨柱の礎石」とみる。また，塔身の一面に彫られた阿弥陀如来は，本願寺が末寺・道場に下付した阿弥陀如来の絵像の輪郭をとどめるものとする。しかし蓮弁円相と種子が彫られた二面は，製作時期が御堂時代より遡ることから，御堂時代以前に造られた石塔を，御堂時代に改変し阿弥陀如来像を彫ったものと推測している。　　（在田　則子）*2

２．石造遺物（塔身）について

今回紹介する資料は，石層塔もしくは宝篋印塔の塔身と考えられるものである。

図２でａとした面に，立像の仏体が陽刻されており，その両側面には種子が陰刻されている。ここでは，向かって右の面をｂ面，左の面をｃ面と呼ぶこととする。なお，ａ面の反対面は著しく削り取られており，旧状は全く窺えない。

ａ面は幅44.0cm，高さ44.0cmで，上面中央部はやや凹む。面の中央に刻まれた像は，頭光（円光）をもっている。もとは半肉彫されていたものであるが，後世に削られたものとみられ，現状は輪郭を確認するにすぎない。顔や衣服は全く不明であるが，如来形と考えられる。わずかに旧状をとどめる耳の部分では，細かな造作を窺うことができる。総高は現状で35.0cm，像高は30.0cmである。頭部の長さ6.5cm，幅3.5cm，耳の長さ3.4cm，衣の幅14.0cmを測る。台座は高さ5.0cm，幅13.5cmである。

ｂ面，ｃ面には，蓮華座を持つ円相の中に，胎蔵界大日如来の種子「ア」がみられる。

ｂ面は向かって右側の辺を欠失する。現存幅は40cmであるが，当初はａ面の幅と同じく44cmを測ったものと思われる。種子は薬研彫されているが筆勢は弱い。円相は蓮華座をもち，外周

写真２　石造遺物（塔身ａ面）

に小蓮弁を配する「越前式」の様相を示している。円相，蓮華座ともに陽刻は低い。円相の径は30.0cmを測る。

ｃ面は向かって左の辺を欠く。種子はｂ面のものに比べて，深く，幅広に彫られる。円相が蓮華座をもち，外周を蓮弁で飾るのはｂ面と同じである。円相の径は32.0cmである。

本資料は青色を呈する火山礫凝灰岩製である。製作時期については，越前式円相をもつ紀年銘資料によって検討したい。石川県内では資料に恵まれないが，下記の福井県内の資料の塔身に近似例を見いだすことができる。

正応３年（1290）の銘をもつ福井市高雄神社七重塔や元亨３年（1323）の銘をもつ丹生郡朝日町大谷寺九重塔は，本資料に先行する様相を示している。これに続く，今立郡今立町国中神社層塔は，鎌倉時代末期，福井市市姫神社の層塔は，鎌倉時代末期から南北朝時代にかけての所産とみられている。本資料は，市姫神社塔に近似しているが，種子の大きさや彫り方に後出的な様相が窺えることより，14世紀中ごろの所産と理解しておきたい。　　（三浦　純夫）

参考文献

井上鋭夫『金沢城址の発掘』金沢大学金沢城学術調査委員会　1969，山本昭治『越前の石造美術』 1991